

公益財団法人軽井沢美術文化学院

平成29年度事業報告書

1. 美術館の運営（公益事業1）

上野の国立西洋美術館が「ル・コルビュジェの建築作品―近代建築への顕著な貢献」として世界遺産に登録されたことを機に2017年6月10日（土）～11月5日（日）の間、同時代に生きた芸術家として、企画展「ル・コルビュジェと西村伊作」副題（坂倉準三・ユリへのつながり オマージュ ル・コルビュジェ「直角の詩」による坂倉ユリ制作タピストリー）を開催した。

ル・コルビュジェと西村伊作は建築において作風、活躍した時期などは異なるが、共に1880年代から1960年代までの同時期に生き、建築の専門教育を受けずに時代の精神を先取りし、大きな業績を遺している事や、画家としての側面も持っている事など、共通点を多く有している。

企画展では両者の絵画作品を展示、また建築をパネル展示で紹介した。また、ル・コルビュジェの弟子で、国立西洋美術館の設計に関わった坂倉準三に送られた絵画と、準三の妻ユリ（西村伊作次女）によるル・コルビュジェの詩画集「直角の詩」よりのタピストリー作品も展示した。

1) 企画展

〈第一室〉は西村伊作に関する紹介と作品を主に展示。彼の生い立ち、教育と文化学院について写真と展示パネルで紹介し、彼が手掛けた住宅の建築模型、油絵作品、陶芸作品を展示した。

〈第二室〉はル・コルビュジェの詩画集『直線の詩』を元に坂倉ユリ（西村伊作の次女）が制作したタピストリー作品19点を解説文とともに展示。展示台には実物の詩画集『直角の詩』と、ロンシャンの教会（ル・コルビュジェの建築）の牧師に贈られたユリ制作のストーラを写真と解説文で紹介した。

〈第三室〉ではル・コルビュジェに関して、日本、フランス、ドイツ、アルゼンチン、ベルギー、インド、スイスの七か国に点在し世界文化遺産に登録された彼の17の建築作品をパネル展示で紹介。国立西洋美術館に関しては詳しく図面、写真などで解説した。ル・コルビュジェの絵画十数点、彼のデザインによるタピストリー、著作『輝く都市』と坂倉準三によるその翻訳も展示。

またル・コルビュジェと坂倉準三の子弟関係の紹介として、1955年に彼が来日した時の準三との写真、準三がル・コルビュジェのアトリエに居たころの写真及び準三の作品とスケッチ画、東急文化会館と劇場写真とコルビュジェ作の緞帳の絵・下書き図と彼の説明文、ル・コルビュジェから準三へ贈られた貝殻実物の展示とそのストーリーの紹介文等を展示した。

入館者数は2397名、西村伊作だけでなく、建築家のル・コルビュジェと坂倉準三を取り上げたことが異なる客層にアピールできたのか、昨年度の1658名に比較すると大幅な増となった。

また企画展にあわせて7月30日にはか建築家藤木忠善氏（元坂倉建築研究所）による建築トークショーを開催、多数の参加があった。10月8日には藤木氏と北村紀史氏（建築家、元坂倉建築研究所）のガイドで軽井沢建築ツアーも開催し、約30名の参加があり大変好評であった。

2) ローズフェスティバル

恒例の、バラとお茶の会「ローズフェスティバル」は6月17日から7月2日まで開催。2017年度からカフェ利用者1名につき100円割引に変更し、240名が割引対象となった。来館者は114名。

3) アートフェスティバル

春は4月29日より5月6日まで、地域の高校生以下の学生、児童の絵画、書、工作などの応募作品を展示した。展示された作品を撮影し小冊子を作製して、応募された皆さんに返送、好評であった。

期間中は入館料を無料とし、278名（昨年は208名）の来館者がありカフェとショップの売り上げは約239千円で昨年より増加した。

夏は昨年に引き続き、フラワーアレンジメント教室を7月30日に開催、11名の参加者があった（昨年は3名）。また木工教室も8月10日から13日まで開催し、31名の参加者があった（昨年は20名）。

秋は10月7と8日にスケッチ大会と体験教室を開催、建築ツアーと同時開催であったため、今年は2日間のフェスティバルにした。76名のスケッチ参加者（昨年は32名）には例年通りクレヨン、スケッチブックをプレゼントした。また、軽井沢中部小学校の吹奏楽部の皆さんには4年目となる演奏会を行ってもらい、来館者に大変喜んでもらった。この春、秋のアートフェスティバルは地元の小、中、高の学生と保護者の方々にすっかり定

着して、毎年の楽しみとなっている。

4) サマーコンサート

以下のコンサートを開催した。

- ① 7/22(土) 日渡奈那 (Guitar) /高橋明日香 (Recorder) デュオコンサート
- ② 8/06(日) 近藤和花 ピアノコンサート (第10回)
- ③ 8/12(土) ボサノバ/サパトス (木村純・三四郎) (第14回)
- ④ 8/20 (日) 林 正樹 (Piano) /純名里沙 (Vocal) デュオコンサート
- ⑤ 8/26 (土) 「一噌幸弘 和の笛・洋の笛・音楽の旅」 (第6回)
一噌幸弘 (能管・篠笛他) /高木潤一 (ギター) /勝海登 (シテ方) /吉見征樹(タブラ)

① ②⑤は軽井沢ペット福祉協会チャリティーコンサートとして売り上の一部を寄付した。

2. 学生寮の運営 (公益事業2)

文化学院のセミナーを中心に、延べ約50名(昨年40名)の学生、教職員および卒業生が宿泊しミーティングが開かれ約278千円の売り上げがあり、人数売り上げともに、昨年の190千円より増加している。

しかしながら、文化学院は2018年3月をもって閉校のため2018年からは卒業生、旧教職員、及び4月に完成するアトリエ・ルヴァンでの講演者、美術館での演奏家が利用する美術館付属の宿泊設備となるため名称の変更も検討する。

3. ショップ、カフェの運営 (収益事業)

ショップ売上は1,584千円で昨年度917千円から大幅な増加となった。今年は建築関係の書籍やル・コルビュジェのリトグラフなどが売れたことが要因と思われる。

カフェの売り上げは3,102千円(昨年2,744千円)と初めて3百万円台に乗せた。美術館庭園の雰囲気が癒しの空間として来館者を惹きつけており、カフェメニューも味と値段ともに好評で新しいものも加わっているのでリピーターは順調に増えていると思われる。

4. その他の活動

他の団体への寄付

国の重要文化財に指定されている新宮の西村記念館については、「西村記念館を守り伝える会」に本年度も引き続き維持、保全のため5年目の10万円の寄付をした。また新たに同市が保全のために購入した西村伊作が建築したチャップマン邸についても、維持、保全のため昨年度に続き10万円の寄付をした。

5. その他の設備投資

多目的ホール（アトリエ・ルヴァン）の建設

11月から懸案であった多目的ホールの建設を開始。美術、工芸、陶芸等のワークショップ、講演、講座が開催できる空間が2018年4月末に完成予定である。名称はアトリエ・ルヴァンとすることが決定した。2018年夏からこのスペースを活用して多種多様なイベントを企画していく予定である。

6. 長野県総務部による定期立ち入り検査

3年に一度行われる定期立ち入り検査が9月22日に行われ、理事事務局長立花が対応した。特に改善事項、指摘事項はなかった。引き続き万全の運営を目指していきたい。

以上